

# 平成27年度アマノリ養殖概況

牧野賢治

育苗は10月中旬から始まった。水温は平年並みであったが、県南部海域で11月上旬にDIN濃度が1  $\mu\text{g-at/L}$ 以下となり、ノリ幼芽の色落ち被害が発生した。11月下旬に本養殖が開始されたが、12月10～11日の低気圧通過による強風により県北部漁場において、風浪が発生し、養殖施設の大半が破壊された。この影響により第1回目の共販が中止になった。養殖施設を再び設置したが、県下すべてのノリ漁場においてノリの生育不良が起こった。原因は不明である。水温下降とともに、その後ノリは生育し、県南部漁場は1月8日、県北部漁場では2月19日の共販に出荷できるようになった。DIN濃度が県南部漁場は1月中旬、県北部漁場では1月下旬から低下し、2月9日には、DIN濃度が0になった。2月19日の共販ではノリの色調低下、色落ちが見られた。降雨の影響により3月中旬までDIN濃度は回復したが、3月下旬には県南部漁場でDIN濃度が1  $\mu\text{g-at/L}$ 以下となり色落ちが発生した。

平成26、27年度の徳島県漁連共販数量の経月変化を図1に、年度別に共販数量と平均単価の推移を図2に示した。養殖開始時期の原因不明のノリの生育不良の影響により共販枚数は、12月が前年比0%、1月が同14%、2月が同25%、3月が同73%、4月は同49%であった(図1)。

平成27年度漁期の共販枚数は36,235千枚で、前年比49%であり、生育不良とノリ業者数件の廃業が原因と考えられる。平均単価は、例年に比べて他産地の生産枚数減少の影響から10.06円(前年比116.3%)であった(図2)。

水産研究課は、徳島県ノリ研究会に協力し、11月9日に阿南中央漁協で健苗度調査を実施した。

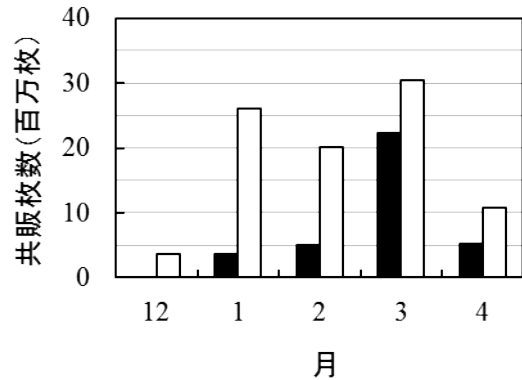


図1．共販枚数の経月変化。  
：平成26年度； ：平成27年度

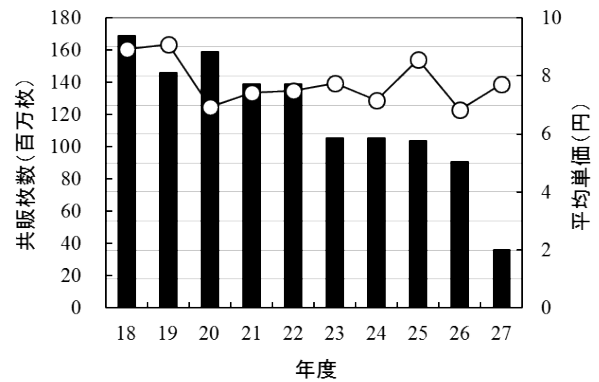


図2．年度別共販枚数と平均単価の推移。  
：共販枚数， ：平均単価